

C-63 大裁長襦袢の衿付け線の作図法

東京家政大短大部 ○神田和子 湘北短大 本田雪子

目的 私達は和服構成の学習効果を上げるために、型紙利用を前提として、長着の衿付け線の新しい作図法を發表した。今回は前回と同様な考え方による作図法を報告する。

方法 長着と長襦袢の着装時の衿の厚みを測定し、長襦袢の衿付け線の作図を衿の厚みを考慮して、上り衿肩明きを定め、上り繰越し寸法を与えて、直線を円弧が接するように衿肩廻りの部分を作図する。尚前回と同様に直線と円弧が角張らずに接する作図法を採用し、作図上の案内点は前回の数式を用いて座標軸で表わす。

結果 (1) 長着と長襦袢の衿の厚みは布の構成要因、衿型などに影響されるが、今回は広衿とぼち衿の2衿型、長着の布はワール、長襦袢はモスリンと了セテート、半衿に塩瀬を用いて作成し、それらの測定結果を考慮して、長襦袢は長着より衿肩明き0.8cm、繰越し0.5cm減じます。(2) 作図法は前回發表した長着の衿付け線の作図法を基準にし発展させたものです。前回同様に衿付け線は角張らずに接点で結ばれています。(3) この作図法によれば初心者でも容易に長襦袢の衿の型紙を作り構成できるので教育上の見地からも望ましい。

1) 昭和49年6月22日 日本家政学会関東支部例会にて発表。家政誌投稿中。